

---

---

# 福祉サービス第三者評価 評価結果報告書

---

---

## 川崎市西高津保育園

### 添付書類

- ①川崎市福祉サービス第三者評価結果報告様式
- ②評価結果
- ③職員自己評価シート集計結果
- ④職員自己評価シート記入欄
- ⑤利用者アンケート結果
- ⑥利用者アンケート集計結果
- ⑦利用者アンケート集計結果(グラフ表示)
- ⑧利用者アンケート集計結果分析

平成 28 年 3 月 14 日

公益社団法人 けいしん神奈川

〔川崎市福祉サービス第三者評価結果報告様式〕  
 (認可保育所版)

対象事業所名（定員）	川崎市西高津保育園（95人）
経営主体（法人等）	川崎市
対象サービス	認可保育所
事業所住所	〒216-0035 川崎市高津区溝口5-15-4
事業所連絡先	044-833-5803
評価実施期間	平成27年12月～平成27年3月
評価機関名	公益社団法人 けいしん神奈川

評価実施シート （管理者層合議用）	評価実施期間 平成27年12月1日～平成28年1月15日
	（評価方法） ・園長、次席が合議により、指定の評価票により自己評価を実施した
評価実施シート （職員用）	評価実施期間 平成27年12月1日～平成28年1月15日
	（実施方法） ・施設より職員全員に評価実施シートを配布。 ・記入後は園内設置の回収箱（評価機関準備）に投函。
利用者調査	（配付日）平成27年12月1日 ..... （回収日）平成28年1月12日
	（実施方法） ・施設より利用者家族全員にアンケート用紙を配布。 ・記入後は園内設置の回収箱（評価機関準備）に投函。
評価調査者による 訪問調査	評価実施期間（実施日）／平成27年2月19日・3月2日
	（調査方法） ・評価者3名が訪問して、施設見学および園長、主任、次席へのヒヤリング、保育観察を行った。（1日目） ・保育士、看護師、栄養士へのヒヤリング、保育観察、最後に園長との意見交換を行った。（2日目）

## [総合評価]

### 概要

川崎市西高津保育園は、田園都市線高津駅より徒歩約10分のところにあり、開所してから43年目になります。マンションや住宅街の中にあり、公園や小学校、図書館も近くにあります。多摩川に近く河川敷は園児の散歩コースになっており、恵まれた環境にあります。園舎は鉄筋コンクリート造り2階建て、園庭やプールを備えています。

保育目標は“心も体身体も健康な子ども”を掲げ、家庭や地域社会との連携、保護者に見える保育で“豊かな人間性を持った子どもの育成”を目指しています。

定員は0歳児～5歳児までの95人で入所児童数も現在95人となっています。給食の直営や看護師・栄養士・発達支援コーディネーターと連携した保育、父母の会との協力、地域子育て支援・近隣民間保育園との交流など公立保育園としての役割を認識した園運営を行っています。

## [全体の評価講評]

### 〈特によいと思う点〉

#### 1. 保育理念・保育目標等は職員全員で話し合い保護者の理解を得る努力をしています。

「保育課程」については、子どもの発達過程に沿って毎年見直し、次年度に活かされるよう作成しています。保育指導計画が子どもの発達に添っているか毎月会議や打ち合わせの中で担任する臨時職員、非常勤職員も入り全職員で反省、見直しをしています。

年度初めに全職員で「保育理念」「保育目標」「保育方針」を確認すると共に、園長が今年度の「運営方針」を提示し、子どもや保護者に寄り添った保育を行っていくことを確認しています。年度末には職員全員で振り返りの機会を作り職員間で確認しています。

年度当初に行う保護者向け「保育説明会」では、寸劇で分かりやすく伝え理解してもらえるようにしています。園だより、クラスだより、連絡ノート、今日の保育なども保護者の理解しやすい言葉、文章で理解を得る努力をしています。

#### 2. 子どもの主体性を尊重し、自己肯定感を大切にする保育を行っています。

子どもが主体的に活動できるよう年齢ごとの発達・興味に応じて環境設定し、遊具の入れ替えは年間を通して行い、自ら遊びを展開できるようにしています。また自分の意見や考えを伝えることができるよう、保育の中に当番活動や行事に向けての話し合いなど様々な場を設定しています。

日々の保育は、子どもの気持ちを尊重し子どもの意思で判断し行動できるような言葉かけをしています。また全職員が“肯定的な言葉かけ”を意識して行うことにより、子ども一人ひとりが自分自身の存在（心情・意欲・態度）を肯定できるような自己肯定感を大切にしている保育を行っています。

### 3. 給食の直営の良さを活かした食育と身体作りに取り組んでいます。

食育は給食直営の利点を活かし、給食職員と連携をとりながら栄養士だけでなく調理員も保育室に足を運び、配膳や食事を一緒にして、子どもと繋がりながら食の提供をしています。実際の食材を見たり、調理するところを見たり声をかけてもらい密接な関係作りに努めています。栄養士は食に関する話を日常的に子どもにしなから、“身体を作る食べ物、力を付ける食べ物”など具体的に示し伝えています。

玄関に食育掲示板を作り、食育活動や食に関する情報をタイムリーに伝えています。親子で食育の話題が進むよう保育室での食育活動の掲示や人気レシピのチラシを作成するなど家庭との連続性についても配慮しています。

### 4. 地域の親子や近隣民間保育園との交流・連携を積極的に推進しています。

公立保育園として、「地域子育て支援」「民間連携」「人材育成」に組織的に取り組んでいます。主な取り組みとして、「園庭開放」「あそびの広場」「あそんでランチ」「プール解放」の他、二子こども文化センターでの親子で集団経験ができる!「あつまれ1(ワン)キッズ」に参加するなど色々な遊びを地域の親子と楽しんでいます。また保育相談を随時開き気軽に応じ、積極的に地域の親子と繋がっています。近隣の民間保育園と交流・連携した様々な取り組みを行い、質の向上に向け相互が努力を重ねています。家庭の子育てを支援するための次世代保育士育成に力を入れており、保育実習生受け入れを積極的に行っています。

#### <さらなる改善が望まれる点>

### 1. 個人情報に関わる重要書類や日常業務に必要な書類等の管理方法と利用しやすい保管環境の整備を進める。

児童票等をはじめ個人情報に関する重要書類や日常業務に必要な書類が事務室内に保管されています。日常業務に必要な書類の保管方法について、職員から「必要になった時にすばやく出せない、どんな時にどんな書類が必要かも分かりにくい」と職員から出ています。整理・整頓を進め、不要な書類は廃棄し、保管すべき書類を整理し、職員が見つけ出し易いように保管する「見える化」が必要です。

また、書籍棚の配置については、利用者が必要書類を取り出しやすくなる位置・高さに配置することが望めます。

## 2. 保護者への積極的な働きかけが望まれます。

今回の保護者へのアンケート調査で、「保護者の考えを聞く姿勢や要望や不満にきちんと対応されているか」について「いいえ」と回答した保護者が他の質問項目に比べ高くなっています。園だより、クラスだより、連絡ノート、今日の保育などで日常的に情報伝達の努力をしていますが、更に、職員全員で保護者への積極的な働きかけが望まれます。

### <サービス実施に関する項目>

#### 共通評価領域

##### 1 サービスマネジメントシステムの確立

年度初めに全職員で「保育理念」「保育目標」「保育方針」を確認すると共に園長から今年度の「運営方針」を提示し、保護者や子どもに寄り添った保育を行っていくことを共通認識しています。「保育課程」については、子どもの発達過程に沿って見直し、次年度に活かされるよう作成しています。

保育目標・保育方針は全職員で確認し、年齢毎の保育内容をまとめて文章化しています。保護者への説明は、保育説明会で寸劇や具体例を出して説明しています。園だより、クラスだより、連絡ノート、今日の保育などでも明示しています。

保育指導計画が子どもの発達にそっているか毎月会議や打ち合わせの中で担任する臨時職員、非常勤職員も入り全職員で反省、見直しをしています。

児童票に、一人ひとりの子どもについての観察個人記録・家庭状況・発達個人票等を記入しています。記録に関しては帳票のマニュアルを活用したり、記録の書き方に関する研修に参加しています。子どもの記録については、鍵付きの所定の棚に保管するとともに、各自が意識を持って取り扱っています。

個別配慮の必要なケースについては、会議の中で報告・検討して情報を共有しています。発達コーディネーターによる「元気の出るカンファレンス」を行い職員の援助の仕方や保育の視点を共通認識しています。

今年度より緊急時用引き取りカードを作成し、各世帯に配布し、保護者と共に緊急時（災害時）の対応を明確化しています。いざという時のお迎え対応などシミュレーションし、災害時の意識向上に繋げています。

災害時の対応については、緊急避難先を明記した資料を保護者に配布し「保育内容説明会」で保護者に説明し、災害伝言ダイヤルも毎月1日に実施。保護者に体験してもらっています。

安全面では毎月の避難訓練を欠かさず行い、その都度反省を出して、会議で討議を行い、より安全で正確に避難できるよう心がけています。

備蓄品は、リストを作成し管理しています。保管場所には、災害時の発生場所を考えいくつか分散して管理しています。

防災訓練では時間帯や曜日、天気の内容を変えながら、様々な場面を想定して行っています。

評価分類		A
<b>(1) サービスの開始・終了時の対応が適切に行われている。</b>		
<p>①川崎市ホームページ・高津区子育て情報ガイド「ほっとこそだてたかつ」・保育園案内パンフレットなど保護者が入手できる媒体で情報提供しています。随時「園舎見学」や「体験保育」「保育相談」に応じ保護者の必要とする情報に対応しています。</p> <p>②入園の際に重要事項説明書において保育園の概要・施設の設備や職員体制など説明し、合わせて「個人情報使用同意書」についても説明し同意を得ています。年度初めに「保育説明会」「クラス懇談会」を開催し、保育内容・緊急時の対応・病気や怪我の対応など説明し同意を得ています。個人情報の扱い（写真掲示など）については園独自のものを作成し保護者に書面にて同意を得ています。</p> <p>③入園前健診で身体的・精神的な面の不安を把握し、必要な情報を収集すると共に子どもについての面談を「栄養士」「看護師」「保育士」で行い不安やストレスを軽減できるように取り組んでいます。</p> <p>④高津区役所こども支援室と連携し、就学に向けての講演会を保護者向けに実施しています。</p> <p>年長児の担任が高津区「幼・保・小連携推進事業」の一環として「年長児担当者会議」「実務担当者連絡会」「授業参観・懇談会」に出席して情報交換を行い、就学に向けて見通しを持った取り組みを実践しています。就学の際には、「保育要録」を作成し、一人ひとりの育ちを小学校に繋げるよう学校と連携しています。就学後も必要に応じて学校との情報交換を行い授業参観や懇談会にも参加し、様子を把握しています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	保護者等（利用希望者を含む）に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	○
②	サービスの開始にあたり保護者等に説明し同意を得ている。	○
③	サービスの利用開始後に、子どもの不安やストレスが軽減されるような支援を行っている。	○
④	就学がスムーズに行われるよう、保育の方法や保護者とのかわりに配慮されている	○

評価分類		A
(2) 手順を定め、その手順に従ったアセスメントを行い、サービス実施計画を策定している。		
<p>①年度初めに全職員で「保育理念」「保育目標」「保育方針」を確認すると共に園長から今年度の「運営方針」を提示し保護者や子どもに寄り添った保育をしていくことを共通認識しています。「保育課程」については、子どもの発達過程に沿って見直し、次年度に活かされるよう作成しています。子ども一人ひとりの児童票を作成し健康記録表・発達個人票・観察個人記録票を成長と共に記録しています。</p> <p>②全職員で確認した「保育課程」に基づき、各年齢の子どもの発達状況を踏まえ、養護と教育の視点を考慮して「保育指導計画」を作成しています。</p> <p>年間指導計画から月間指導計画、週・日指導計画を作成して見直しを持ったクラス運営を行っています。</p> <p>③年間指導計画は、4期に分けて各年齢の目標とする子どもの姿を描いています。期毎に実状と合わせ保育の見直しを行っています。</p> <p>月間指導計画の見直しは、乳児・幼児打ち合わせの時間に非常勤職員、担任する臨時職員も参加し、各年齢で反省した内容を持ち寄り行っています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	手順を定め、その手順に従ってアセスメントを行っている。	○
②	指導計画を適正に策定している。	○
③	状況に応じて指導計画の評価・見直しを行っている。	○
評価分類		A
(3) サービスの実施の記録が適切に行われている。		
<p>①児童票に、一人ひとりの子どもについての観察個人記録・家庭状況・発達個人票等を記入しています。記録に関しては帳票のマニュアルを活用したり記録の書き方に関する研修に参加し記入しています。</p> <p>②個人情報に関する書類は、事務室鍵つき書庫に保管し、持ち出し禁止。その都度鍵を開けて使用しています。</p> <p>③個別配慮の必要なケースについては、会議の中で報告・検討して情報を共有しています。</p> <p>発達コーディネーターによる「元気の出るカンファレンス」を行い職員の援助の仕方や保育の視点を共通認識しています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	子どもに関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	○

②	子どもに関する記録の管理体制が確立している。	○
③	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有している。	○

評価分類		A
<b>(4) 提供するサービスの標準的な実施方法が確立している。</b>		
<p>①保育目標・保育方針を全職員で確認し、年齢毎の保育内容をまとめて文章化しています。保護者へは保育説明会にて具体的に寸劇や具体例を出したり、園だより、クラスだより、連絡ノート、今日の保育などで明示しています。</p> <p>②保育指導計画が子どもの発達にそっているか毎月会議や打ち合わせの中で担任する臨時職員、非常勤職員も入り全職員で反省、見直しをしています。</p> <p>行事に対しては、保護者の意向も汲みながら企画し、子どもの気持ちを大事に取り込みながら取り組んでいくようにしています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	提供するサービスについて標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	○
②	標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	○



評価分類		A
<b>(5) 利用者の安全を確保するための取組が行われている。</b>		
<p>①保育園での病気や怪我については、年度当初の「保育説明会」にて看護師より具体的に説明すると共に「災害共済給付制度」のお知らせもしています。感染症についてもその対応は、健康管理マニュアルを基に備えています。</p> <p>安全点検は、毎月1回行っています。安全点検での気付きは、補修したり園長に報告し、会議でも周知しています。</p> <p>②災害マニュアルについて、全職員に周知徹底しています。災害時の対応については、緊急避難先を明記した資料を保護者に配布し「保育内容説明会」で説明しています。災害伝言ダイヤルも毎月1日に実施。保護者に体験してもらっています。</p> <p>災害時は、園独自の「防災カード」を導入し備えています。いざという時のお迎え対応などシミュレーションし、災害時の意識向上に繋がっています</p> <p>備蓄品は、リストを作成し保育園の各クラスマニュアルで管理しています。保管場所についても災害時の発生場所を考えいくつか分散して管理しています。</p> <p>③子どもの怪我やヒヤリハットについては、ミーティング、状況に応じて緊急会議、事故報告書で職員に周知し、原因・保護者への対応・今後の改善点を検証し共通認識しています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	緊急時（事故、感染症の発生時など）における子どもの安全確保のための体制が整備されている。	○
②	災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。	○
③	子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	○

### <サービス実施に関する項目>

共通評価領域
2 人権の尊重
<p>子どもの気持ちを尊重し、子どもの意思で判断し行動できるような言葉かけをしています。性差への先入観による固定概念や役割分担をしないよう職員で共通認識し保育にあたっています。国籍や文化の違いを認め十分配慮し保育を進めています。</p> <p>「一人ひとりの子どもを大切に」内容を保護者説明会や懇談会などを通し折にふれ説明し、保育の中でも保育課程・年間指導計画に反映し実践しています。</p> <p>虐待防止マニュアルに沿って、虐待の早期発見から相談、通告までのチェック体制を</p>

整えています。日頃の保育や視診の中でも細心の注意を払い早期発見に努めています。虐待の疑いを感じたり、傷など気になるケースは、情報を収集し観察・保護者面談を行うようにしています。

入園時に個人情報に関する説明をし承諾書をとっています。(児童票に保管)

年度途中発生する写真提供に関しては、使用目的や掲載範囲をその都度保護者に説明し確認を取っています。実習生・ボランティアの受け入れの際にオリエンテーションで説明し、個人情報の守秘義務について周知徹底を図っています。

子どものことばかけについては肯定的なことばかけをすることを職員間で共通認識し、会議の中でも振り返りをしながら進めています。

プール遊びや着替え・シャワー・おむつ替えなどの際は、目隠しをし人目につかないよう配慮しています。特に園舎の作りから、公園に面しているので室内の着替えは必ずカーテンを使用し着替えています。

評価分類		A
<b>(1) サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している。</b>		
<p>①子どもの気持ちを尊重し、子どもの意思で判断し行動できるような言葉かけをしています。</p> <p>性差への先入観による固定概念や役割分担をしないよう職員で共通認識し保育にあたっています。国籍や文化の違いを認め十分配慮し保育を進めています。</p> <p>②「ひとりひとりの子どもを大切にする」内容を保護者説明会や懇談会などを通し折にふれ説明し、保育の中でも保育課程・年間指導計画に反映し実践しています。</p> <p>職員は、毎年子どもの権利に関する研修に参加し学び、保護者にも11月は人権に関するテーマでおたよりを配布しています。</p> <p>③虐待防止マニュアルに沿って、虐待の早期発見から相談、通告までのチェック体制を整えています。日頃の保育や視診の中でも細心の注意を払い早期発見に努めています。虐待の疑いを感じたり、傷など気になるケースは、情報を収集し観察・保護者面談を行うようにしています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	日常の保育にあたっては、個人の意思を尊重している。	○
②	子どもを尊重したサービス提供について共通の理解を持つための取組を行っている。	○
③	虐待の防止・早期発見のための取組を行っている。	○

評価分類		A
<b>(2) 利用者のプライバシー保護を徹底している。</b>		
<p>①入園時に個人情報に関する説明し承諾書をとっています。(児童票に保管)</p> <p>年度途中発生する写真提供に関しては、使用目的や掲載範囲をその都度保護者に説明し確認を取っています。</p> <p>実習生・ボランティアの受け入れの際にオリエンテーションで説明し、個人情報の守秘義務について周知徹底を図っています。</p> <p>②子どものことばかけについては肯定的なことばかけをすることを職員間で共通認識し、会議の中でも振り返りをしながら進めています。</p> <p>プール遊びや着替え・シャワー・おむつ替えなどの際は目隠しをし、人目につかないよう配慮しています。特に園舎の作りから、公園に面しているので室内の着替えは必ずカーテンを使用し着替えています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	子どもや保護者に関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、子どもや保護者の同意を得るようにしている。	○
②	子どもの気持ちに配慮した支援を行っている。	○

### <サービス実施に関する項目>

共通評価領域
3 意向の尊重と自律生活への支援に向けたサービス提供
<p>年度初めの「保育内容説明会」や年2回の「クラス懇談会」などを通じて保護者の考えや提案を受けています。答えられる事項についてはその場で対応しています。行事後に保護者向けアンケートを行い、満足度や改善点、保護者のニーズを把握し次の行事に活かしています。</p> <p>日々の保育では、子どもの意見を活かしながら保育を展開しています。子どもの満足度についても、日常の中で聞き取りや表情などから担任との信頼関係を基に把握しています。朝の受け入れ時には家庭との連絡を密に取り、連絡帳や引継ぎ簿を活用し丁寧に行い、一人ひとりに応じた保育を進めています。</p> <p>年10回開催している「父母の会」には園長・次席がオブザーバーとして出席し、討議の場を設け意見交換をしています。</p>
<p>子どもが主体的に活動できるよう、年齢ごとの発達・興味に応じて環境設定し、遊具</p>

の入れ替えは年間を通して随時行い、子どもが自ら遊びを展開できるようにしています。子どもが自分の意見や考えを伝えることができるよう、保育の中に当番活動や行事に向けての話し合いなど様々な場を設定しています。

異年齢の子どもたちが日々関わって過ごせるよう自然な交流を大事にしながら、幼児クラスでは異年齢活動の年間計画を立て、お楽しみ会など協同して遊ぶ機会を作っています。年間を通して日本古来の伝統行事を大切にしています。たこ揚げや羽子板など文化を知らせ体験することで、生活や遊びを豊かに展開できるようにしています。

苦情解決の流れを玄関に掲示しています。保護者説明会でも苦情解決の流れと受付窓口を知らせています。保護者向けご意見箱を設置し要望や利用者満足度の把握に努めています。子どもや保護者から意見があった時には、受け付けた職員より園長に報告し、職員会議を開催して解決に向け迅速に取り組んでいます。

園長・保育士・栄養士・看護師・発達支援コーディネーターがそれぞれの専門性を活かし、保護者からの相談や意見を受け付ける体制を整えています。苦情があった時は、その記録をとり保管しています。

評価分類		A
<b>(1) 利用者の意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる。</b>		
①行事の後、保護者向けアンケートを実施し、満足度や改善点、保護者のニーズを把握し次の行事に活かしています。子どもの満足度についても日常の中で、聞き取りや表情などから担任との信頼関係を基に行っています。		
第3者評価を定期的に受け、利用者アンケートを実施しています。		
②保護者向けご意見箱を設置し利用者満足度の把握に努め、サービス向上に活かしています。		
評価項目		実施の可否
①	利用者満足の把握に向けた仕組みを整備している。	○
②	利用者満足の向上に向けた仕組みを整備し、サービス向上に取り組んでいる。	○

評価分類		A
<p><b>(2) 利用者が意見等をのべやすい体制が確保されている。</b></p> <p>①日々の保育は、子どもの意見を活かしながら保育を展開しています。</p> <p>園長・担任・栄養士・看護師・発達支援コーディネーターがそれぞれの専門性を活かし、相談や意見を受け付ける体制を確立しています。</p> <p>日頃から意見を言いやすい雰囲気、関係作りを意識し、相談内容によっては、プライバシーに配慮しカーテンの活用など安心して相談できるようにしています。</p> <p>②苦情解決の流れを玄関に掲示、保護者説明会でも苦情解決の流れ、受付窓口を知らせています。苦情があった時は、その記録をとり、保管しています。</p> <p>③子どもや保護者から意見があった時には、受け付けた職員より園長に報告し職員会議を開催して解決に向け迅速に取り組んでいます。</p>		
評価項目		実施の可否
①	子どもや保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	○
②	苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	○
③	子どもや保護者からの意見等に対して迅速に対応している。	○

評価分類		A
<p><b>(3) 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている。</b></p> <p>①朝の受け入れの際家庭との連絡を密に取り、連絡帳や引継ぎ簿を活用し丁寧に言い、一人ひとりに応じた保育を進めています。</p> <p>年齢ごとの発達に応じた保育の展開を学び、会議の中でも振り返りを具体的に言いながら、発達に応じ子どもに寄り添う保育の展開をしています。</p> <p>家庭環境や一人ひとりの身体的成長を十分把握し職員で共有し援助しています。</p> <p>②年間を通して日本古来の伝統行事を大切に、文化を知らせ、体験することで生活や遊びを豊かに展開していています。</p> <p>異年齢の子どもたちが日々関わって過ごせるよう自然な交流を大事にしながら、幼児クラスでは異年齢活動の計画を立て協同して遊ぶ機会を作っています。</p> <p>③子どもの年齢ごとの発達・興味に応じて環境設定し、遊具の入れ替えは年間を通して随時行い、子どもが自ら遊びを展開できるようにしています。</p> <p>子どもが自分の意見や考えを伝えることができるように保育の中に当番活動や行事に向けての話し合いなど様々な場を設定しています。</p> <p>④発達支援コーディネーターを中心に定期的にケースカンファレンスを行い職員全体で子どもの理解を深めています。</p> <p>職員は、障害や特別な支援を要する子どもの保育に関する研修を受け、より適切な援助を進めています。必要に応じて家庭や専門機関と連携をとっています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	子ども一人ひとりを受容し、その発達の過程や生活環境などの理解を深めて働きかけや援助が行われている。	○
②	様々な人間関係や友達との協同的な体験ができ、生活が豊かになるような環境が整備されている。	○
③	子どもが主体的に活動し、自分を表現し、他者の表現を受け入れる力が育つように支援している。	○
④	特別の配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるように援助している。	○

## 〈サービス実施に関する項目〉

共通評価領域

### 4 サービスの適切な実施

子どもの発達状況に合わせて基本的な生活習慣を身につけられるよう、見通しを持って計画し支援しています。健康把握をしてその日の健康状態や活動量に応じて休息の時間や場所を取れるよう、メリハリのある保育を組み立てています。看護師・栄養士からの専門的な指導も行っています。怪我や病気の予防、危険を察知し回避する能力など視覚に訴えながら必要なことを意識するよう働きかけています。

朝の受け入れ時は、口頭での家庭状況把握を大切にして対応しています。乳児は個人連絡帳も活用しています。確認した子どもの状況は、引継ぎ簿と口頭にて担任に引き継ぎ、遅番の担当まで一日を通して情報が正しく伝わるよう意識しています。

食事は給食直営の利点を活かし、給食職員と連携をとり栄養士だけでなく調理員も保育室に足を運び、配膳や食事を一緒にして子どもと繋がりながら食の提供をしています。実際の食材を観たり、調理するところを見たり声をかけてもらい密接な関係作りに努めています。栄養士は食に関する話を日常的に子どもにしています。身体を作る食べ物、力を付ける食べ物などを具体的に示し伝えています。

喫食状況は喫食状況報告書に各クラス担任が記入し、栄養士が月の献立反省に活かしています。毎月給食会議持ち色々な職種との連携、情報の共有をしています。

玄関に食育掲示板を作り、食育活動や食に関する情報をタイムリーに伝えています。親子で食育の話題が進むように保育室での食育活動の掲示や人気レシピのちらしを作成し提供しています。

年間健康管理計画に基づき看護師が保健指導を実施しています。職員・子どもに怪我や病気の予防を意識付け、保護者にも掲示して伝えています。自分で危険を察知する危険回避能力の育ちに繋がるよう保育の中で折に触れ話しています。危険な行動や頭を守ることの大切さを伝えています。

健康診断は乳児が毎月1回、幼児は年3回に加えプール活動前の健診1回、歯科検診を年1回行い、結果はすこやか手帳・歯科健診結果表に記載し、担任と情報共有し保護者に伝えています。毎日の欠席・視診の状況は、サーベイランスシステムに入力し、感染症流行の動向情報が近くである場合には、保護者にも情報提供しています。

評価分類		A
<b>(1) 家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている。</b>		
<p>①朝の受け入れ時の口頭での家庭状況把握を大切にに対応しています。乳児は個人連絡帳も活用しています。 確認した子どもの状況については、引継ぎ簿・口頭にて担任に引き継ぎ、遅番の担当まで一日を通して情報が正しく伝わるように意識しています。</p> <p>②子どもの発達状況に合わせて基本的な生活習慣を身につけられるように見通しを持って計画をし支援しています。 看護師・栄養士からの専門的な指導により必要な事を意識するような働きかけをしています。</p> <p>③子どもの健康把握をし、その日の健康状態や活動量に応じて休息のスペースや時間を取れるようなメリハリのある保育を組み立てています。</p> <p>④引継ぎ簿をもとになるべく口頭で一日の状況を保護者に伝えています。子ども同士のトラブルや必要なときは、担任から直接伝えるようにしています。</p> <p>⑤年度初めの保育内容説明会、年2回のクラス懇談会で保護者の考え・提案を受けるようにし、答えられる事項はその場で対応しています。年10回父母の会にて園長、次席がオブザーバーとして出席し討議の場を設けています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	登園時に家庭での子どもの様子を保護者に確認している。	○
②	子どもが基本的な生活習慣を身につけ、積極的に身体的な活動ができるよう支援を行っている。	○
③	休息（昼寝も含む）の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している。	○
④	お迎え時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている。	○
⑤	保育所の保育に関して、保護者の考え方や提案を聴く機会を設けている。	○



評価分類		A
<b>(2) 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている。</b>		
<p>①職員の入替わり、担当が変わるところで、引継ぎ簿・口頭にて職員間で一日の様子を伝達しあい、安定して過ごせるようにしています。</p> <p>早出、延長保育に使用する部屋の環境も工夫し、子どもがゆったりできるスペースの確保、遊具の用意を意識しています。</p> <p>②日中の保育の中で年齢の違う子どもたちのかかわりを大事にしています。早出や延長の時間は一緒に過ごすので年齢に合わせた遊びの設定や保育士が仲立ちとなり異年齢の子どもたちがスムーズに関わって遊べるように配慮しています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている。	○
②	年齢の違う子どもとも楽しく遊べるような配慮をしている。	○

評価分類		A
<b>(3) 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している。</b>		
<p>①落ち着いた雰囲気の中で食べられるようにテーブルの配置や職員の動線を考慮しています。子どものテーブルの高さや椅子についても子どもに合ったものを使用することに配慮しています。食事に興味を持てるような声かけをし、楽しい雰囲気を作っています。</p> <p>栄養士が直営でいるのでこまめに保育室にも足を運び、食に関する話を日常的に子どもにしています。</p> <p>②喫食状況報告書に各クラス担任が記入し栄養士が把握し、月の献立反省に活かしています。</p> <p>子どもの状況に合わせた刻み方、味付け、形態を栄養士が子どもの状況を見ながら調整しています。</p> <p>③除去食の子がいます。毎月栄養士が除去食献立表を作成し、担任・給食・保護者と確認し提供しています。</p> <p>体調が悪い時など食事連絡表にて食事内容を確認し、医師の診断に基づき個別に配慮した食事を提供しています。</p> <p>④玄関に食育掲示板を作り、食育活動の掲示や食に関する情報をタイムリーに伝えています。</p> <p>親子で食育の話題が進むように保育室での食育活動の掲示やアピールをしています。</p>		
評価項目		実施の可否

①	子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している。	○
②	メニューや味付けなどに工夫をしている。	○
③	子どもの体調や文化の違いに応じた食事（アレルギー対応を含む）を提供している。	○
④	保育所の食育に関する取組を保護者に対して伝える活動をしている。	○

評価分類		A
<b>(4) 子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている。</b>		
<p>①登園時の子どもの体調、家での様子など丁寧に把握し、保育するにあたり、職員間でも情報共有し異常の早期発見に努めています。</p> <p>年間健康管理計画に基づき、看護師の保健指導を実施し、職員・子どもに怪我や病気の予防を意識付け、保護者に向けても掲示し伝えていきます。</p> <p>自分で危険を察知していく危険回避能力の育ちに繋がるよう保育の中でも子どもに折に触れ話していくようにしています（危険な行動・頭を守る）。園内外で起きた事故や感染症は、状況に応じて園医、こども支援室に連絡し連携をとっています。</p> <p>②健康診断は乳児毎月1回、幼児年3回＋1回、歯科検診年1回行い結果は、すこやか手帳・歯科健診結果表に記載後、担任とも情報共有し保護者に伝えていきます。</p> <p>③川崎市感染症情報を玄関掲示しています。感染症が疑われる場合は、別室にて保育し、感染拡大を防ぎ保護者にも連絡しています。</p> <p>感染症発症の際は子どものプライバシーに配慮しながら最小限に抑えるよう対処、保護者へ周知しています。</p> <p>毎日の欠席・視診の状況をサーベイランスシステムに入力、感染症流行の動向情報が近くである場合は、保護者に情報提供しています。</p> <p>SIDSの危険性については、見学者にも知らせ在園児には、入園説明会・保育説明会にて伝えていきます。毎日の午睡時は、健康管理マニュアルに沿い、チェックを行い記録しています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	けがや病気を防止するため、日頃から身の回りの危険について子どもに伝えている。	○
②	健康診断・歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それぞれの保育に反映させている。	○
③	保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群（SIDS）等に関する情報を提供し、予防に努めている。	○

## <組織マネジメントに関する項目>

共通評価領域

### 5 運営上の透明性の確保と継続性

理念・基本方針は、川崎市公立保育所運営指導方針を踏まえ園長が作成し、それを職員会議で職員に周知しています。職員はこの理念・基本方針をもとに年間のカリキュラム、月間のカリキュラムを作成し、話し合いの中で理解を深めています。

保護者に理解してもらうため、保育説明会・クラス懇談会・園だより・クラスだより等で、なるべく具体的に保護者に伝えるようにしています。今年度は寸劇で表現するなど分かりやすさを追求し伝える努力をしています。クラス懇談会では、年齢別の保育のねらいを伝え、折に触れクラスだよりで時期ごとのねらいや努力目標を伝えています。

川崎市の「新たな公立保育所」の方針に沿って、「地域子育て支援」「民間連携」「人材育成」の3本柱にて計画策定に取り組んでいます。子育て支援事業は高津区と連携して策定し実施しています。年間の計画を立て職員はそれぞれ役割を持ち職員共有のもと進めています。

年度初め保育説明会にて保護者にも保育内容・事業について説明し賛同を得ています。保護者参加の行事については、終了後の感想などで保護者の意向を把握し行事の見直しや取り組みに活かしています。

年度初めに園長が西高津保育園運営方針を策定し全職員に職員会議で提示し説明しています。職員の資質向上の為に研修に積極的に参加を促しています。(区主催・運営支援人材育成担当主催他) 人事評価制度を活用し業務の見直し改善を行い進めています。

産業医による職場巡視を年1回受けて職員の健康管理・職場環境の向上に努めています。職員の働きやすい環境整備のため補修や改善に定期的に取り組んでいます。

評価分類

A

#### (1) 事業所が目指していること(理念・基本方針)を明確化・周知している。

- ①理念・基本方針は、川崎市公立保育所運営指導方針を踏まえ園長が作成し、それを職員会議で職員に周知しています。理念・基本方針は「入園のしおり」「保育説明会の冊子」に明記し保育説明会にて保護者に説明しています。
- ②理念・基本方針は年度初めの職員会議で職員へ周知徹底しています。職員はこの理念・基本方針をもとに年間のカリキュラム、月間のカリキュラムを作成し、話し合いの中で理解を深めています。
- ③保育説明会・クラス懇談会・園だより・クラスだより等で、なるべく具体的に保護者に伝えるようにしています。今年度は寸劇で表現するなど分かりやすさを追求し、伝える努力をしています。クラス懇談会では、年齢別の保育のねらいを伝え、折に触れクラスだよりなどでもねらいや努力目標を伝えています。

評価項目		実施の可否
①	理念・基本方針を明示している。	○
②	理念・基本方針について、職員の理解が深まるような取組を行っている。	○
③	理念・基本方針について、子ども本人や家族等の理解が深まるような取組を行っている。	○

評価分類	A
<b>(2) 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる。</b>	

- ①川崎市の基本方針に基づき運営方針が提示され、それに沿って諸計画を作成しています。
- ②川崎市の「新たな公立保育所」の方針に伴い、「地域子育て支援」「民間連携」「人材育成」の3本柱にて計画策定に取り組んでいます。
- ③子育て支援事業は高津区と連携して策定し実施しています。年間の計画を立て職員はそれぞれ役割を持ち職員共有のもと進めています。
- ④今年度の事業計画や取り組みについては、会議にて周知徹底し、高津区役所こども支援室とも連携して行っています。
- ⑤年度初め保育説明会にて保護者にも保育内容・事業について説明し賛同を得ています。
- 保護者参加の行事については、終了後の感想などで保護者の意向を把握し行事の見直しや取り組みに活かしています。

評価項目		実施の可否
①	理念・基本方針の実現に向けた中・長期計画が策定されている。	○
②	中・長期計画を踏まえた年度単位の事業計画が策定されている。	○
③	事業計画の策定が組織的に行われている。	○
④	事業計画が職員に周知されている。	○
⑤	事業計画が保護者等に周知されている。	○

評価分類		A
<b>(3) 管理者は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている。</b>		
<p>①年度初めに園長が西高津保育園運営方針を策定し全職員に職員会議で提示し説明しています。</p> <p>②職員の資質向上の為に研修に積極的に参加を促しています。(区主催・運営支援人材育成担当主催他) 人事評価制度を活用し業務の見直し改善を行い進めています。</p> <p>③産業医による職場巡視を年1回受けて職員の健康管理・職場環境の向上に努めています。</p> <p>職員の働きやすい環境整備のため補修や改善に定期的に取り組んでいます。</p>		
評価項目		実施の可否
①	管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	○
②	質の向上に意欲を持ちその取組に指導力を発揮している。	○
③	経営や業務の効率化と改善に向けた取組に指導力を発揮している。	○

評価分類		A
<b>(4) 質の向上に向けた取組が組織的に行われている。</b>		
<p>①第三者評価を定期的に受けています。人事評価制度により定期的に業務を見直し、職員は年2回自己評価と園長面接を行っています。</p> <p>②評価結果を受け明確になった課題を全職員で共有し改善策・改善実施計画について取り組んでいます。</p>		
評価項目		実施の可否
①	サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	○
②	評価結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にし、改善策・改善実施計画を立て実施している。	○

評価分類		A
<b>(5) 経営環境の変化等に適切に対応している。</b>		
<p>①「新たな公立保育所のあり方」の「地域子育て支援」「民間連携」「人材育成」に組織的に取り組んでいます</p> <p>②実施事業については、振り返り課題を考えたり、見直しをしながら事業の改善に努めています。</p>		

評価項目	実施の可否	
①	事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	○
②	経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取組を行っている。	○

### 〈組織マネジメントに関する項目〉

<p>共通評価領域</p> <p>6 地域との交流・連携</p>
<p>川崎市ホームページや高津区ホームページ「ホッとこそだてたかつ」の情報サイトや小冊子にて開示し、来園した方には「ひろばノート」を配布しています。また地域支援に関して様々な方法で情報を公開し、時には直接配付し関係作りに努めています</p> <p>ボランティア受け入れについては、マニュアルを整備し積極的に受け入れています。実施に当たってはオリエンテーションを行い基本姿勢の説明をしています。今年度は、保育を学んでいる卒園児の短期間ボランティアを受け入れました。実施に当たってはオリエンテーションを行い基本姿勢の説明をしています。</p> <hr/> <p>園長が子ども支援室主催の「園長・校長連絡会」、「認可保育園連絡会」、「認可外保育園連絡会」に出席しています。</p> <p>二子こども文化センターでの親子で集団経験ができる!「あつまれ1(ワン)キッズ」に参加するなど、地域の親子に遊びや情報の提供を行っています。その他「園庭解放」「あそびの広場」「あそんでランチ」「プール開放」などで地域の親子の求めているニーズを聞き取り、計画の反省や見直しに活かしています。</p>

評価分類		A
<b>(1) 地域との関係が適切に確保されている。</b>		
<p>①川崎市ホームページや高津区ホームページ「ホッとこそだてたかつ」の情報サイトや小冊子にて開示し、来園した方には「ひろばノート」を配布しています。また地域支援に関して様々な方法で情報を公開し、時には直接配付し関係作り努めています</p> <p>②子ども文化センターにて民生委員・児童委員、主任児童委員と連携し「1キッズ」を開催し、地域の親子に子育てに有意義な情報や遊びを提供するとともに、園庭開放、地域向け講座「あそんでランチ」、「あそびの広場」、「プール開放」「お楽しみ会」を開催して、地域の親子や近隣民間保育園との交流を積極的に行っています。</p> <p>③ボランティア受け入れについては、積極的に受け入れる姿勢を示し、受け入れ体制マニュアルを整備しています。実施に当たってはオリエンテーションを行い基本姿勢の説明をしています。今年度は、保育を学んでいる卒園児の短期間ボランティアを受け入れています。実施に当たってはオリエンテーションを行い基本姿勢の説明をしています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	地域社会に対して、開かれた組織となるよう、事業所に関する情報を開示している。	○
②	事業者が有する機能を地域に提供している。	○
③	ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	○

評価分類		A
<b>(2) 地域の福祉向上のための取組を行っている。</b>		
<p>①園長がこども支援室主催の「園長・校長連絡会」「認可保育園連絡会」「認可外保育園連絡会」などに出席しています。</p> <p>②二子こども文化センターでの親子で集団経験ができる!「あつまれ 1 (ワン) キッズ」に参加し、地域の親子に遊びや情報の提供を行っています。</p> <p>③「あそびの広場」や「あそんでランチ」「園庭開放」で保護者のニーズを聞き取ったりして、地域の親子の求めている事を探り、今後の取り組みの内容に生かしています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	関係機関・団体との定期的な連絡会等に参画している。	○
②	地域の関係機関・団体の共通の課題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
③	地域の福祉ニーズを把握するため事業・活動に参加している。	○

<組織マネジメントに関する項目>

共通評価領域

7 職員の資質の向上の促進

入所児童数について予め職員と話し合い、同意を得ています。各年齢・時間帯の保育に必要な有資格者の確保に取り組むとともに、発達が気になる子どもへの対応や臨時職員への対応に配慮しています。職員には職場内の自主考査に取り組み公務員としての自覚を促しています。職員の評価については、川崎市の人事評価で面談を行い、年度ごとに個人課題の取り組みを明確に進めるとともに、年間3回園長と職員の面談を通し評価を行っています。実習生の受け入れについては積極的に受け入れています。

行政職としての人材育成計画のもと組織的に研修が計画されており、職員はキャリアに合わせて研修に参加しています。また園内研修への取り組みや園独自のOJTを行い、臨時職員も含め職員同士専門職としての資質向上をめざし進めています。研修に参加した職員は園長に報告（口頭・報告書の提出）し、職員会議にて職員に報告することで学びを共有しています。定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っています。

職場環境の見直しや休暇取得率、時間外労働時間のチェックを行っています。園長への聞き取りや職員との個人面談も行っています。また年3回園長が職員との面談を行い業務内容や相談を受けています。これらの面談等を通して職員の就業状況や意向を把握し、必要があれば改善する仕組みができています。川崎市の福利厚生会に入会して福利厚生事業が利用できる仕組みが組まれています。職員には、園長・次席への相談がしやすい雰囲気を作り、悩み事を一人悩まないで解決できる場を設けています。

評価分類

**(1) 事業者が目指しているサービスを実現するための人材構成となるよう取り組んでいる。**

A

- ①入所児童数について予め職員と話し合い、同意を得ています。入所審査会終了後受け入れ予定数を運営支援人材育成担当に提出し、必要な人員の確保をしています。
- ②各年齢・時間帯の保育に必要な有資格者の確保に取り組んでいます。
- ③全職員で職場内の自主考査に取り組み公務員としての自覚を促しています。職員ハンドブック「服務掌冊子」を携帯し公務員としての自覚をもって行動することに取り組んでいます。
- ④人事評価制度を活用し年間3回園長と職員の面談を通し評価を行っています。
- ⑤次世代育成の視点で要請のあった学校からの学生（実習生は保育士5名・看護師3名・栄養士1名、1日インターシップを2名）を受け入れ、保育体験を通し、子どもの発達にあった子どもへの援助の仕方を指導しています。



評価項目		実施の可否
①	必要な人材や人員体制に関する具体的な考え方が確立している。	○
②	具体的なプランに基づく人材の確保に取り組んでいる。	○
③	遵守すべき法令・規範・倫理等を正しく理解するための取組を行っている。	○
④	職員の育成・評価・報酬（賃金、昇進・昇格など）が連動した人材マネジメントを行っている。	○
⑤	実習生の受入れと育成が積極的に行われている。	○

評価分類		A
<b>(2) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。</b>		
<p>①年度初めに研修の計画が出され行政職として求められる専門性、能力が明示されています。</p> <p>②行政専門職としての人材育成計画のもと組織的に研修が計画されており職員は、キャリアに合わせて研修に参加しています。</p> <p>③研修に参加した職員は、園長に報告（口頭・報告書の提出）職員会議にて職員に報告することで学びを共有し皆のものとしています。</p> <p>研修の内容によっては、区での発表をしたり、保育園の中での実践への取り組み、臨時職員への研修報告会を設けています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	○
②	個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	○
③	定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	○

評価分類		A
<b>(3) 職員の就業状況に配慮がなされている。</b>		
<p>①職場環境の見直しや休暇取得率、時間外労働時間のチェックを毎年行っています。園長への聞き取りや職員との個人面談も行っています。年3回園長が職員との面談を行い業務内容や相談を受けるようにしています。</p> <p>②川崎市の福利厚生会に入会して福利厚生事業が利用できる仕組みが組まれています。職員には、園長・次席への相談がしやすい雰囲気を作り、悩み事の解決できるようにしています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	○
②	職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	○

# 〔認可保育所版〕

## 評価実施シート【自己評価用】

### 職員用（集計）

施設・事業所名

川崎市西高津保育園

実施方法：全職員に評価シートを配布し、回答はアンケート回収箱に投入してもらい、後日回収を実施。

配布数 18通

回収数 18通

回収率 100%

評価実施シートから自己評価を実施する場合の記入手順

1 評価分類に対する事業所の取組状況を確認するため、「評価の項目」記載の取組について、

- ・すべて実施が確認できた（満たしている）ときは「できている」
- ・すべての実施が確認できないときは「できていないところがある」
- ・すべて実施されていないければ「できていない」

から選択し、評価欄へ○を付けます。

2 評価分類については、◆ねらいと（留意点）、評価項目に関しては、評価の視点を参照してください。

3 すべての評価分類について確認をしたら、共通評価対象領域ごとに、「力を入れている点、工夫している点など」と、「改善する必要があると考える点」について、記載します。

共通評価対象領域	
(サービス実施に関する項目)	1 サービスマネジメントの確立
	2 人権の尊重
	3 意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供
	4 サービスの適切な実施
(組織マネジメントに関する項目)	5 運営上の透明性の確保と継続性
	6 地域の交流・連携
	7 職員の資質の向上と促進

★ 保育所の場合、保育所保育指針の中で「保育士等が、自分の保育実践を振り返って自己評価すること」が求められており、「保育士等の自己評価」を踏まえ、保育所の自己評価を実施することが求められます。そのため、「保育士等の自己評価」とは異なります。

## 評価実施シート（自己評価用：職員用）

### 〈サービス実施に関する項目〉

#### 1 サービスマネジメントシステムの確立

評価分類		評価			評価項目
		できている	できていないところがある	できていない	
(1)	サービスの開始・終了時の対応が適切に行われている。	94%	6%	0%	保護者等（利用希望者を含む）に対してサービス選択に必要な情報を提供している。
					サービスの開始にあたり保護者等に説明し同意を得ている。
					サービスの利用開始後に、子どもの不安やストレスが軽減されるような支援を行っている。
					就学がスムーズに行われるよう、保育の方法や保護者とのかかわりに配慮されている。
(2)	手順を定め、その手順に従ってアセスメントを行い、サービス実施計画を策定している。	100%	0%	0%	手順を定め、その手順に従ってアセスメントを行っている。
					指導計画を適正に策定している。
					状況に応じて指導計画の評価・見直しを行っている。
(3)	サービス実施の記録が適切に行われている。	100%	0%	0%	子どもに関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。
					子どもに関する記録の管理体制が確立している。
					子どもの状況等に関する情報を職員間で共有している。
(4)	提供するサービスの標準的な実施方法が確立している。	89%	11%	0%	提供するサービスについて、標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。
					標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。
(5)	利用者の安全を確保するための取組が行われている。	89%	11%	0%	緊急時（事故、感染症の発生時など）における子どもの安全確保のための体制が整備されている。
					災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。
					子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。

力を入れている点、工夫をしている点など	改善する必要があると考える点
別紙	別紙

## 評価実施シート（自己評価用：職員用）

〈サービス実施に関する項目〉

### 2 人権の尊重

評価分類	評価			評価項目
	できている	できていないところがある	できていない	
(1) サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している。	100%	0%	0%	日常の保育にあたっては、個人の意思を尊重している。 子どもを尊重したサービス提供について共通の理解を持つための取組を行っている。 虐待の防止・早期発見のための取組を行っている。
(2) 利用者のプライバシー保護を徹底している。	100%	0%	0%	子どもや保護者に関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、子どもや保護者の同意を得るようにしている。 子どもの気持ちに配慮した支援を行っている。

力を入れている点、工夫をしている点など	改善する必要があると考える点
別紙	別紙

## 評価実施シート（自己評価用：職員用）

### 〈サービス実施に関する項目〉

#### 3 意向の尊重と自律生活への支援に向けたサービス提供

評価分類		評価			評価項目
		できている	できていないところがある	できていない	
(1)	利用者の意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる。	94%	6%	0%	利用者満足の把握に向けた仕組みを整備している。 利用者満足の向上に向けた仕組みを整備し、サービス向上に取り組んでいる。
(2)	利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	100%	0%	0%	子どもや保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。 子どもや保護者からの意見等に対して迅速に対応している。
(3)	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている。	83%	17%	0%	子ども一人ひとりを受容し、その発達の過程や生活環境などの理解を深めて働きかけや援助が行われている。 様々な人間関係や友達との協同的な体験ができ、生活が豊かになるような環境が整備されている。 子どもが主体的に活動し、自分を表現し、他者の表現を受け入れる力が育つように支援している。 特別の配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるように援助している。

力を入れている点、工夫をしている点など	改善する必要があると考える点
別紙	別紙

## 評価実施シート（自己評価用：職員用）

### 〈サービス実施に関する項目〉

#### 4 サービスの適切な実施

評価分類		評価			評価項目
		できている	できていないところがある	できていない	
(1)	家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている。	83%	17%	0%	登園時に家庭での子どもの様子を保護者に確認している。
					子どもが基本的な生活習慣を身につけ、積極的に身体的な活動ができるよう支援を行っている。
					休息（昼寝も含む）の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している。
					お迎え時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている。
					保育所の保育に関して、保護者の考え方や提案を聴く機会を設けている。
(2)	保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている。	83%	17%	0%	保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている。
					年齢の違う子どもとも楽しく遊べるような配慮をしている。
(3)	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している。	100%	0%	0%	子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している。
					メニューや味付けなどに工夫をしている。
					子どもの体調や文化の違いに応じた食事（アレルギー対応を含む）を提供している。
					保育所の食育に関する取組を保護者に対して伝える活動をしている。
(4)	子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている。	94%	6%	0%	けがや病気を防止するため、日頃から身の回りの危険について子どもに伝えている。
					健康診断・歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それぞれの保育に反映させている。
					保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群（SIDS）等に関する情報を提供し、予防に努めている。

力を入れている点、工夫をしている点など	改善する必要があると考える点
別紙	別紙

## 評価実施シート（自己評価用：職員用）

### 〈組織マネジメントに関する項目〉

#### 5 運営上の透明性の確保と継続性

評価分類		評価			評価項目
		できている	できていないところがある	できていない	
(1)	事業所が目指していること（理念・基本方針）を明確化・周知している。	89%	11%	0%	理念・基本方針を明示している。
					理念・基本方針について、職員の理解が深まるような取組を行っている。
					理念・基本方針について、子ども本人や家族等の理解が深まるような取組を行っている。
(2)	実践的な課題・計画策定に取り組んでいる。	94%	6%	0%	理念・基本方針の実現に向けた中・長期計画が策定されている。
					中・長期計画を踏まえた年度単位の事業計画が策定されている。
					事業計画の策定が組織的に行われている。
					事業計画が職員に周知されている。
					事業計画が保護者等に周知されている。
(3)	管理者は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている。	94%	6%	0%	管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。
					質の向上に意欲を持ちその取組に指導力を発揮している。
					経営や業務の効率化と改善に向けた取組に指導力を発揮している。
(4)	質の向上に向けた取組が組織的に行われている。	94%	6%	0%	サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。
					評価結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にし、改善策・改善実施計画を立て実施している。
(5)	経営環境の変化等に適切に対応している。	89%	11%	0%	事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。
					経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取組を行っている。

力を入れている点、工夫をしている点など	改善する必要があると考える点
別紙	別紙



## 評価実施シート（自己評価用：職員用）

〈組織マネジメントに関する項目〉

### 6 地域との交流

評価分類		評価			評価項目
		できている	できていないところがある	できていない	
(1)	地域との関係が適切に確保されている。	83%	17%	0%	地域社会に対して、開かれた組織となるよう、事業所に関する情報を開示している。
					事業者が有する機能を地域に提供している。
					ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。
(2)	地域の福祉向上のための取組を行っている。	83%	17%	0%	関係機関・団体との定期的な連絡会等に参画している。
					地域の関係機関・団体の共通の課題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。
					地域の福祉ニーズを把握するため事業・活動に参加している。

力を入れている点、工夫をしている点など	改善する必要があると考える点
別紙	別紙

## 評価実施シート（自己評価用：職員用）

〈組織マネジメントに関する項目〉

### 7 職員の資質の向上の促進

評価分類		評価			評価項目
		できている	できていないところがある	できていない	
(1)	事業者が目指しているサービスを実現するための人材構成となるよう取り組んでいる。	94%	6%	0%	必要な人材や人員体制に関する具体的な考え方が確立している。
					具体的なプランに基づく人材の確保に取り組んでいる。
					遵守すべき法令・規範・倫理等を正しく理解するための取組を行っている。
					職員の育成・評価・報酬（賃金、昇進・昇格など）が連動した人材マネジメントを行っている。
					実習生の受入れと育成が積極的に行われている。
(2)	職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	100%	0%	0%	職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。
					個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。
					定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。
(3)	職員の就業状況に配慮がなされている。	94%	6%	0%	職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。
					職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。
力を入れている点、工夫をしている点など					改善する必要があると考える点
別紙					別紙

西高津保育園

職員用評価実施シート記入内容

	力を入れている点、工夫をしている点など	改善する必要があると考えている点
1 サ ー ビ ス マ ネ ジ メ ン ト	<p>○・ホームページや冊子などで区役所と連携とりサービス提供している。</p> <p>・就学がスムーズに行われるよう年長担当者会議に職員が出席したり、元小学校職員を呼んで保護者に話をしてもらった。</p> <p>・園独自の散歩マニュアルを作成した。</p> <p>○避難訓練以外にも、幼児クラスでは防災集会も取り入れるようにしている。</p> <p>○・説明会だけでなく、保護者一人ひとりに丁寧に声をかけている。</p> <p>・防災訓練では時間帯や曜日、天気で内容を変えながら、様々な場面を想定して行っている。</p> <p>○・保護者説明会や懇談会、個人面談、日々の送迎時に保護者に丁寧に説明している。</p> <p>・指導計画にさいしては、日誌や記録など周知している。</p> <p>・安全面では毎月の避難訓練を欠かさず行い、その都度反省を出して、会議で討議を行い、より安全で正確に避難できるよう心がけている。</p> <p>○・保育内容説明会・入園説明会・懇談会を通して、必要な情報を適切に提供できている。</p> <p>・地域に向けて子育て支援に力入れ、いろいろな保育事業を行い成果を上げている。</p> <p>・今年度独自に防災カードを作成した。</p> <p>・就学に向けて地域の保育園や保護者（4歳児）にも声をかけ、講演会を設けた。</p> <p>・子どもの心に寄り添い、肯定的なことばかけをしている。</p> <p>○・保育説明会、懇談会、個人面談など機会を設け、情報を提供している。</p> <p>・指導計画の作成、反省、見直し等、会議や打ち合わせを利用しながら行っている。</p> <p>・毎月避難訓練を行い、防災カードの利用、周知も行ってきた。</p> <p>○・子どもの記録については、鍵付きの所定の棚に保管するとともに、各自がかなり意識を持って取り扱っている。</p> <p>・年長児クラスの、12月に専門家を呼び「就学前懇談会」を実施し、不安をとりのぞき見通しを持って就学に向かえるようにしている。</p> <p>・防災カードを各家庭に配布。災害時に備えている。</p> <p>○今年度より緊急時用引き取りカードを作成し、各世帯に配布。保護者と共に緊急時（災害時）の対応を確認した。</p> <p>○・児童票以外にも 気になる子のケースを記録して</p>	<p>○全職員が資料のデータの場所等を把握し、全員が要求に応じ手渡してできるようにする。</p> <p>○12種類ある保育のマニュアルを、さらに活用できるようにしていきたいと考える。</p> <p>○・サービスの提供に関するマニュアル的なものは整備されているが、文書化されたものの、所在が把握しきれていない点があり、再確認の必要性を感じる。</p> <p>○色々な書類がどんな時に必要で、その書類が明確にわかる為のマニュアルがないので、利用者が必要となった時にスムーズに出せる環境設定。</p> <p>○職員の全員が、サービス提供にあたっての色々な必要書式の所在等を熟知しているかといえ、徹底には至っていない。必要な情報を適時すばやく提供するために、書類の種類や所在、関係機関（区役所）との連携や手順等が全員理解していなくてはいけないのではないかと。安全確保の点では避難訓練をありとあらゆる方法でおこなってはいるものの、実際の災害や事件発生の際にどれだけ実行できるものなのかと考えると、充分というレベルに達することは難しいと感じる。</p> <p>○書類の所在を明確にし、職員一同がわかりやすくする。</p>

いる(ex 気になる子の迎えの人を毎日チェック等)。  
・災害カードを作り、緊急時の迎えをしっかりと把握している。

○・地域支援も職員全体でとりくみ、来園者に対して明るくていねいに接している。  
・保育説明会・懇談会・面談等、保護者に対して、保育の説明を行っている。  
・就学に向けては、幼保小の連携もあり、他機関からの講師による講演会も行い、民間園の職員も参加している。

○・区役所とも連携をしっかりと、在園中の保護者だけでなく、地域の親子向けにも利用しやすい保育園となるよう実施している事が多い。  
・園独自として、災害時に備え防災カードの作成、避難訓練以外に幼児では別途防災集会の実施や防犯についての指導も、外部の方に行ってもらっている。

○・地域の人たちに開かれた保育園になるよう力を入れている。  
・幼保小連携を密に行うようになり、就学がスムーズになるようにしている。年長児の懇談会では、講師をよんで保護者の不安をとりのぞいている。

○入園後の慣れ保育に当たり、保護者へ事前に知らせ、子どもの様子に合わせ行っている。  
・月・期・年間計画は、子どもの姿に合わせ毎回計画し、その都度見直しを行っている。

○保護者への春(年度当初)の説明会は勿論のこと、懇談会(2回)、個人面談会等サービスの続く間のフォローを行うシステムは整っていると思う。就学に向けては民間園や年中組保護者にも公開するクオリティの学習会を行うことができおり、参加する保護者も多い。安全確保への取り組みの中では、園独自の「防災カード」導入をし、職員意識の高まりと保護者への危機感の啓もう・周知ができていると思う。

○・保育説明会・懇談会・個人面談などの機会に、丁寧に説明を行っている。  
・地域来園者にも直接対応で丁寧な利用説明を行っている。  
・就学に向けて専門家の講演を年長児のほか年中児、地域民間園の職員・保護者も対象に行っている。  
・避難訓練・安全点検を毎月実施、報告され、全職員に周知されている。  
・幼児クラスでは防災の集会を行いわかりやすくつたえている。  
・災害時の送迎にそなえて、防災カードを作成し、保護者に周知している。

<p>2 人 権 の 尊 重</p>	<p>○・気になる事は、児童相談所と連絡をとり、場合によっては虐待が疑われる時は、写真をとったりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プライバシー保護として、写真の掲載の承諾をとっている。</li> <li>・散歩の時、名札は裏にしておく。</li> </ul> <p>○受け入れ時の視診を行い、不自然な点があれば確認し、児童相談所等とも連携している。</p> <p>○・個人の意思という点では、毎月の保育反省にてひとりひとりの保育を振り返り、その子にとってよりよい成長ができるようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待に際しては職員同士把握し、児童相談所とも連絡を密にしている。</li> <li>・プライバシーに際しては、外部への行事参加や散歩、遠足など個人が特定されぬよう名札を見えないよう工夫している。又写真等撮る時には保護者の同意が得られてからにしている。</li> </ul> <p>○・共通の理解を持つため話し合いを持ち、保育の振りの機会を多く持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プライバシー保護のため帳票はカギのあるロッカーに入れ、その他の書類等目の触れないようカバーをしたり、箱の中や机の中に入れるよう周知徹底している。</li> </ul> <p>○・共通理解については毎月会議を行い、保育をふりかえり、狙いを確認しながら他クラスと連携をとりながら行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権の学習会に参加している。</li> <li>・個人情報取り扱い等、入所時に確認し、書面でもらっている。</li> </ul> <p>○・虐待については、現在児相につなげるケースはないが、視診時や着脱時に怪我がないか等常に留意し、職員で情報を共有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プライバシー保護については、アタマジラミのチェックは他児と別室で行う、おもらした事を他児にも分かるようにいわない、ひとり親家庭の子への言動の配慮など、保育の中で様々のことに配慮している。又保護者がいる時に、子どもの連絡や情報を保護者間で伝えあう時にも、配慮している。</li> </ul> <p>○川崎市 子どもの権利条例策定の日にあたり、職員間で話し合いを設け、一人ひとりが人権について考える機会がある。又全世帯配布のおたよりで保護者へも啓蒙している。</p> <p>○プライバシーについては、写真の配慮や乳児おむつ替えの時のしきり、着替え時カーテンをしめる等配慮を徹底している。又個人名が記されている書類のしまい場所は鍵がかかる所へ入れている等。</p> <p>○・虐待防止に関してはマニュアルもあり、児相との連携もできていて、プライバシーを保護しながらの子どもの人権を守った対応ができています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誕生児の写真掲載なども、ひとつひとつ保護者の承諾を得て行っている。</li> </ul>	<p>○人権について、保護者におたより等で伝えているが、一緒に考える機会をもっていきたい。</p> <p>○利用者の権利（人権の権利）について、学習会等に定期的に参加しつつも、「人権」という意識で話せているのかは薄い気がするので、もう少し踏み込んで話していけると良いと思う。</p> <p>○子どもを尊重したサービスの提供についての共通の理解を持つという点では、もっと保護者と語りあう機会を意図的に作り、関係を深めていくとより良い信頼関係を築けると思う。</p> <p>○人権に関しての話し合い 研修も行っているが、年一度程度なので、保護者と共に懇談会等で話していく場をつくってもいいと思う（回数を増やす）。</p> <p>○人権については、一年に一回必ず職員間で話し合いをしたり、人権を意識して保育に当たっているが、「人権」についての話し合いがもう少しあっても良い（月1回など）。</p> <p>○保育の内容の振り返りの中で、日々の対応や見直しを持ったねらいを立てるといったことが、自然と一人ひとりの育ち（＝人権）を守り尊重していると理解できるものの、「人権」とははっきり意識した子どもへの対応とは考えていない毎日であるのが現状ではないか。年一回の会議議題だけでなく、もっと頻繁に明確な意図を持った話し合いをすべきなのではないか。また人権意識を高める研修等は全職種職員で、意識を持って各自が積極的に受講する風土になっていくべきかと感じる。</p> <p>○保護者とともに考える場があっても良いのではないかと思う。</p>
--	---	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名簿などからの個人情報の流出防止に努め、表紙をつけて直接には見られないようにしたり、散歩の時にも子どもの名札は裏向きにつけている。</li> <li>○・虐待の早期発見につながるよう、独自のマニュアル作成をしたり、関係機関と定期的に連絡を取り合っている。</li> <li>・個人情報についても、各自に確認（書面にて）したり、職員は人権について学習会に参加したり、会議内で話し合ったりする。細かい点ではオムツ交換時や着替え時も周囲から守れるようカーテンや目かくしとなるようガード（仕切り）を使用していねいに行っている。</li> <li>○工夫している点、散歩時名札を裏につける。着替え時外から見えない様カーテンをしめる。虐待防止、早期発見にかんしては、児相と連携を密にしている。気になる子が長期休みの場合、こちらからアクションをおこしている。</li> <li>○・保育士一人ひとりが、子どもの思いを尊重した働きかけを行なっている。</li> <li>・個人情報に関して、入園のときやその都度、保護者に同意を求めるようにしている（写真など）。</li> <li>○人権の尊重とは、ということを改めて考え直すために、年一回は人権を意識して保育を振り返る機会（会議）を設けているのは、独自性があると思う。保護者へも意識してもらおうと、人権の日に絡めて園長の自らのことばでコラムをお便りで発行し、既成のものでない発信をしている。虐待防止・注意として児童相談所連携のケースやそれ以外でも気になるケースがあれば、職員間・会議等で共有し、送迎時にチェック。電話を受けた際のききとりの工夫で状況を把握する。会話の中で探る等を行い、その結果も即日共有し、連携して見守る意識を持っている。また「虐待防止マニュアル」を園独自で作成している。</li> <li>○虐待については、日々の話の中、連絡帳で気になった点、職員に伝えて全体で把握している。</li> <li>○・毎日のふり検討の中で、子ども保護者を丁寧に受容するための検討反省を行っている。</li> <li>・虐待防止について、注意を要するケースについて児相と連絡を密にしている。</li> <li>・写真撮影や掲示について入所時及び必要に応じて一人一人の保護者に了解を得ている。</li> <li>・プライバシー保護のための一つ一つの取り組みが検討され、園として共有されている。</li> </ul>	
3	○・意見箱を設置し、いつでも意見が聞けるように	○配慮の必要なこどもが複数名おり、一人一人丁

<p>意向の尊重と自立生活への支援</p>	<p>している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気になる子については、カンファレンスを開き、意見を出し合い、よい方向に向かうようにしている。</li> <li>○職員全体で肯定的な言葉かけを意識して行い、自己肯定感を育むようにしている。</li> <li>○意見箱、民生委員の紹介その他、気になる保護者には声をかけ、園への意見を言ってもらうように連携している。気になる子どもはケース検討を行い、職員全体で見守っている。</li> <li>○・個人ノートやクラスノート、お便りを通じて発信したり、保護者とのコミュニケーションを密にして意向を把握している。又それを職員全体で把握している。</li> <li>・子どもが安心して一日をすごせるように、一人ひとりの気持ちによりそい肯定的な言葉かけをするようにしている。</li> <li>・毎月ケース検討やカンファランスなど行い、配慮が必要な子がよりよい環境ですごせるよう行っている。</li> <li>○・懇談会や面談、送迎時に保護者対応を丁寧に行い、コミュニケーションをとり、意向を受け止め取り組んでいる。</li> <li>・地域の子育て支援についても、参加できる行事を多くし充実させている。</li> <li>・コーディネータを在籍していること、意見箱を設置し対応をしている。問題とかんじた時等周知し対応している。</li> <li>○・園内向けにはクラス便りを発行し、地域親子に向けてもイベントを行い利用してもらっている。</li> <li>・園に意見箱を設置、行事後のアンケートも行っている。</li> <li>・ケース検討会や元気のでるカンファランスの実施、コーディネータの在籍。</li> <li>○発達相談支援コーディネータが在籍しており、元気の出るカンファランス等を行い、子どもへの様々な視点からの共通理解へつなげている。</li> <li>○保護者からの意見・苦情に対しては、意見箱の設置を行う、又日頃からコミュニケーションを取りながら話しやすい雰囲気作りを心掛けている。保護者会のある園でもあるので、そこから出た意見は、職員に周知し改善につとめている。日常的に異年齢と関わる機会が多いが、意識的に異年齢活動を行い、幼児だけでなく乳児期から一緒に遊んだり散歩に行く機会も多い、近隣園との関わりの中で、自園の友だちにかぎらず地域の中で育つ事を目的として関われる取り組みも行っている。</li> <li>○会議等で園長より保護者に対しての伝え方の指導を受け、全職員で共通認識を十分にしている。</li> <li>○・行事を行うと、感想やアンケートを集め、課題を見つけて検討をしたり、こちらの思いを伝える為のお便りを発行したりしている。</li> </ul>	<p>寧に関わりたいが、じっくり対応できる人員がいつもあるとは限らない。もっとじっくり関わりをもちたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○配慮が必要な子がクラス内に重複している場合においては、一人ひとりに十分な関わり合いが持てない現実がある。</li> <li>○特別の配慮が必要な子どもに対して適切な援助をしているが、時として他の子に目がいかない事もあり、声をかけ合っている。</li> <li>○配慮が必要な子1人ひとりに十分関わるための対応。</li> <li>○意見箱に対して周知はしているが、利用者は多くないので、さらなるアピール（おたよりで知らせる等、定期的に伝えていく）があっても良いかと思う。</li> <li>○特別の配慮が必要な子どもに対して、その子どもの姿をとらえて、保育の大変さを考えていくことはできているが、その先としてどのように保育を保障していくかとか、クラスの中で、他の子どもたちも共に成長していくという観点からの保育のすすめ方については、意識が低いように思う。</li> <li>○職員配置が決められており、本来はていねいに一個人的に関わってあげたい子、支援を必要としている子に適切な配慮ができていない時があるが、その日その時の職員体制の中で、子どもの状況に応じ対応できるように努めている。</li> <li>○子ども一人ひとり（園全体の）の発達の過程や生活環境などの働きかけや援助の部分で、十分な関わりができていないのではないかと思います、改善できるのではないかと思います。</li> <li>○「利用者＝子ども・保護者・地域親子等」と考えたとき、子どもへの処置は日々の業務（保育）そのものによって満足いくようにするシステムになっているといえるが、保護者に向けてはどうかと考えると、様々な価値観の大人の集団の全ての意見を集約したり応えていけるかといった点では、満足に至るには相当なレベルでないといけないだろう。もっと「利用者アンケート」の取組をすることも可能ではないか。安住せず常に高い意識は必要と思うが、全職員がそこまで高い意識をもっているかどうかは難しい。また地域親子を対象と考えると、隣接する公園や近くの子育て支援センター「たまご」等と、この保育園とに何の違いを求めどんなニーズが存在するのかといった満足向上への取組は不十分と考える。</li> </ul>
-----------------------	---	--

	<p>・年度当初の説明会で苦情解決のシステムについて知らせ、受け入れ体制を整えている。</p> <p>○利用者を在園児だけに限らず、広い視野でとらえ地域の親子・近隣保育園などにも対応しており、実際に来園者や行事への参加者が増えている。コーディネータが在職しており、年数回ティーサロンを開き、子育てについて話したり、保護者の思いをきいたりできるようにしている。</p> <p>○連絡帳や会議等、職員全体で子ども一人ひとりの状態を確認しあっている。年度始めに苦情をうけつけているとアピールしている。行事後のアンケートを受けて次年度の行事につなげられるよう工夫している。</p> <p>○・行事後には必ずアンケートをとり、保護者の意見や子どもたちの姿勢を見て、次年度に生かそうとしている。</p> <p>・子ども一人ひとりの思いを尊重し、主体的に集団で活動できるように配慮している。</p> <p>○苦情解決の仕組みについて年度当初の説明会で明確に説明し、担当者・意見箱設置・職員へいつでも伝えられること等を伝えているほか、懇談会や面談・コーディネータの企画「おはなし」の会等、通年であらゆる場面で保護者の話（悩み、意見等さまざまに）をきこうという姿勢で取り組みを行っていると思う。子ども一人ひとりを主体と捉えて、個別の発達状況や情緒的特徴・家庭背景などを加味してねらいを持って保育内容を考え、他機関（児童相談所、療養センター等を含む）とも連携することのできる環境で保育計画を立て実施・実践している。</p> <p>○父母と日頃コミュニケーションをとり、少しの間でも言葉でも（ノート以外でも）伝えている。連絡帳に細かい点も、みのがさず話しを聞いたり相談にのる。</p> <p>○・課題や問題点があった場合は速やかに園長、次席に報告。内容に応じて複数で検討・対応がなされている。</p> <p>・コーディネータを中心に、子どもへの配慮が話し合わせ、共通認識をもって保育にあたっている。</p> <p>○月一回の身体測定や栄養師との細かな話し合い等、一人ひとりの発達状況に配慮している。</p>	
4 サ ー ビ ス の 適 切 な 運	<p>○・長時間保育の子がメリハリつけてすごせるよう、午後も外に出て遊んでいる。</p> <p>・食育指導、保健指導を行い、子どもが食事や健康に意識がもてるようにしている。</p> <p>○楽しく食事をして、食べることが好きになってもらえるよう、食材に触れる体験や栽培、給食室を見にくるなど取りくんでいる。喫食の様子を栄養士がみて刻み方や食具など調整している。</p> <p>○・各クラス引き継ぎノートを利用し、クラス担任でない場合も、子どもの様子などを把握し保護者に</p>	<p>OSIDSチェックしていることをアピールしているが、もっとアピールしてもよい（0歳児だけでなく、新入児は幼児でもするとよい）。</p> <p>OSIDS など細かい対応をもっと保護者に伝えて、家庭にも反映してもらえるようアピールすべき。</p> <p>○異年齢児同士の関わりとは別に、早出保育、延長保育時が同室ということも有り、あそびがマンネリ化しつつあるところが改善点である。</p> <p>○延長保育、特例保育時については、子どもが落</p>



<p>営</p>	<p>対応している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢が関わってあそべる日を設けたり、日々の保育の中でも自然と関わりがもてるようにしてきた。</li> <li>・食育指導を行い、食材に興味関心を持ったり、食欲へとつなげている。</li> <li>・看護指導など行い、子ども自身が自分の身を守れるよう行っている。</li> </ul> <p>○生活の流れができるだけ同じ動線で動けるよう、担任間だけでなく他の職員にも周知実行できるようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢との交流を楽しませたり、遊具を朝夕と日中と変化を持たせたり、ゆったりすごせるよう工夫をしている。</li> <li>・除去食については、栄養士等とその都度確認をし、声を出し合っている。</li> <li>・乳 15 分、幼 30 分しっかり SIDS のチェックをし、年度当初の保護者にも伝えている。</li> </ul> <p>○保護者の意見をきく機会としては、直接あつまる場として懇談会を利用したり、意見箱も設置している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アレルギー食については、何重にもチェックしまちがいのないようにしている。</li> </ul> <p>○(3)項、各年齢の取り組みを全体で把握し、写真掲示などで保護者にも積極的に伝えている。食材に触れる体験、給食の職員に部屋に来てもらい、盛りつけ、行事食にも年齢ごとの理解に合わせて伝える、給食室に調理のようすを見に行く等、様々な食育に取り組んでいる。</p> <p>○特に食事・食育に関しては、給食職員が業務委託ではなく直営である為、保護者との関係（悩み相談等）がスムーズであると感じる。又職員会議に参加できるので、子どもや家庭といった食における背景を理解して、給食業務に関われる事ができるので、食育活動や一人ひとりに対する働き掛けが的確である。</p> <p>○各クラス引き継ぎ表を作り、遅番職員へきちんと伝言することを伝え、責任をもって保護者へ話している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食については、盛りつけ等話し合い、4歳児クラスより盛りつけを変更した（子どもの自主性を尊重する）。</li> </ul> <p>○給食の職員も直営なので、子どもや保護者を目の前にしての実践的な話がしやすく、会議内容も直接伝わっていくので、食育も一緒にすすめられていく気持ちが強く感じられる。</p> <p>○公立の民営化が進む中、直営で調理ができていくことは大きい。とくに民間保育園から食育の様子を見学されたり、栄養士が出向いたり、地域の保護者や在園児の保護者の悩みにすぐに応じていける。子どもの状況について会議で共に対していけること</p>	<p>ちついてすごせるよう考え、保育体制を立てたり子どもと関わっているが、延長特例保育専用の遊具や設定があると、さらに良いかもしれないと考える。</p> <p>OSIDS に関して、特に 0、1 歳児に対しては入園時に説明しているが、今後は幼児クラスに入園する場合にも、伝えていく事を職員間で確認した。</p> <p>○子どもの状況を保護者に直接伝えるということは、お迎えの時間がまちまちだったり、職員も時差勤務もあり難しい面がある。できるだけ保育園での子どもの様子を口頭で伝え、保護者からも家庭での様子を聞いて、信頼をふかめていきたいと努力しているが、常に語り合うことを大切にすることを忘れないようにしている。</p> <p>○異年齢ですぐす特例保育、延長保育時の遊具が別に専用のものとして用意されたら、なお良いかも知れないが、子どもの発達に応じた遊具の設定、コーナーの利用をして対応。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SIDS について説明会、こんだん会、クラスたよりや掲示でも知らせているが、いまだ原因究明されていない状態なので、幼児の保護者にもアピールしたり、現在 15 分～30 分でチェックして気をつけていることを、もっとアピールしてもよいと思った。</li> </ul> <p>○早出居残り時の遊具が十分ではない(年齢にあった遊具が準備できてない、土曜日は配慮されている)。</p> <p>○家庭養育との連携という点では、年齢が大きくなると個別の連絡帳がないため、なかなか一人ひとりの細部までを全員分、一人の担任が把握することまではいかない上、送迎時は早番遅番に当たった時しか会えないという保護者も大多数であるというところでは、保護者に直接口頭で伝えたりきいたりとするのが難しい。当番をしている時も自クラス保護者のみならず、他クラスのケースについても伝えたりきいたりすることや、それを担任同士で連携し伝達するというのを、より意図的に行うために改善や工夫ができるとよいと常に感じている。保育時間の長い子どもへの配慮という点では、環境や遊具の配慮は十分にできているかどうかと考えると、もっとできることがあるのではないかと思える（スペース、専用遊具等）。SIDS 予防に関して、保護者への情報提供は行ってはいるが、もっとできることがあると考える（実施状況の周知と啓もう、入園時の説明での啓もうと注意喚起）。</p>
----------	--	---

	<p>は強みである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園内だけでなく民間、地域から要求も高く実際に応じている。</li> </ul> <p>OSIDS の対応として、午睡時乳児 15 分おき幼児 30 分おきの確認は年長児まで行っている。ひきつぎの為のノートをフルに活用して丁寧に対応するとともに、子どもの健康状態を早出居残りでも把握し、家庭と密に連絡をとりあっている。給食が直営の為保育の会議に出席し、子どもの育ちを共有し、個別の配慮ができています。</p> <p>○・家庭での様子を連絡票だけでなく、送迎時保護者に様子を聞き、職員間で連絡し合っている。又園での様子も迎えのときしらせるようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養士、看護師が子どもたちに対し、視覚的にわかりやすく指導をしている。</li> </ul> <p>○子どもの生活が 24 時間連続している。又翌日へとつながっているということで、特に健康面、また保育上のことも含め、勤務前に必ず「引き継ぎ表」「保健日誌」を見て確認してから保育にあたるということが習慣（マニュアル）として定着している。</p> <p>食事については、給食直営の利点を最大に活かし、給食職員との連携がとれており一人ひとりの食事を子ども像全体でとらえて、職種間で共有してつくり上げることができていると思う。健康維持については、看護師と毎日連携し一人ひとりの状況が集約されるほか、保育士の保育の中でも子どもへの啓もう、指導は日々の声かけでも最も重視し、朝戸外へ出たらず準備運動をする。新しい遊具は使い方を周知確認する等、乳児クラスでも年齢なりに伝え実施している。</p> <p>○子どもの給食室との関係もとれる様に、給食室をのぞいて「食育」とつなげる。父母にも写真を展示して知らせる。</p> <p>○・栄養士・看護師・調理員・保育士が話し合い、子どもの姿を共通理解したうえで、保育の中で専門性を発揮されるよう連携している（保健・食育指導等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との連絡が密にされるよう、又見落としのないよう職員間での連絡引き継ぎが定時（当番、保育交替時）で行われている（保健日誌・ミーティング確認も必須としている）。</li> </ul> <p>○年長児の当番の子が人数表を持ってきた際、当日の食材にふれてもらったり話をする事で、食への気持ちを高める事が出来た。</p>	
5 運 営 の 透 明	<p>○・保育説明会や懇談会などで、理念・基本方針を明確に知らせている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議などスムーズにいくように事前の準備ができるよう、園長が導いてくれる。</li> </ul> <p>○年間のカリキュラムを会議で見直しながらすすめている。月毎に反省や良かった点など、職員全体で</p>	<p>○保育について、又今日それぞれの保育のポイントなど、保護者にアピールをもっとしてもよいと思う。</p> <p>○臨時職員に対しての周知。</p> <p>○日の保育のポイントを園だよりにのせると、さらに分かりやすい。</p>

<p>性</p>	<p>ふりかえっている。</p> <p>○・理念・基本方針は明示しており、それに向けた年カリ、月カリを作成し話し合いもされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人や民間園との関わりの中で、様々な職種が意識を持って対応している。</li> </ul> <p>○・会議の中で保育の振り返り確認をし、全職員の認識として取り組み確認し合うよう掲示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画をたて（保育課程に基づき）、会議の中で認識し周知している。</li> <li>・年間行事等、年度当初に保護者に伝え、確認をとっている。</li> <li>・質の向上に向けて、人材育成が行われている。</li> </ul> <p>○・各種おたよりや懇談会、説明会、日々やりとりの中で明示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人事評価や第三者評価の実施。</li> </ul> <p>○・クラス懇談会、クラスだより、保育説明会、園だより等で保育の方針や計画について丁寧に伝えている。職員間でも会議で周知されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の状況に応じた取りくみの一つとして、近隣の民間保育園と連携した様々な取りくみや公開保育を行っている。</li> </ul> <p>○国の理念や基本方針に対しては、保護者の理解しやすい言葉、文章、形式におきかえて、クラスだより、園だよりの他にも一人ひとりに口頭や連絡ノート等に伝えるようにしている（他保育内容説明会においても説明している）。とくに今年度は、園だよりを利用し、保育についてその理念や基本方針を伝える事を強化した。今年度は特に乳幼児保育においての話し合いを多く持つようにし、自園だけでなく周辺の民間園と共に、質の向上に向け取り組んだ（公開保育）。</p> <p>○基本方針や目標等年度末頃に話し合う機会を作り、職員間で確認している。</p> <p>○保育課程や目標などについての振り返りも行い、職員の周知に努めている。会議に出席できなかった場合も、記録を読んでチェックしている。</p> <p>○周辺に民間保育園が多いこともあり、何年も前から交流をもち、ここ数年はさらに需要も増え、内容も深まっている。</p> <p>○目標や基本理念等、会議などで全員がどのように考えているか、じっくりと時間をとり話しあっている。</p> <p>○「保育目標」を職員だけでなく、保育室に掲示し保護者にも見えるようにしている。</p> <p>○年度当初に行う保護者向け「保育説明会」にて、毎年「乳児」「幼児」と分けて保育のポイントをわかり易く伝え理解してもらうようにしている。今年度は寸劇にして表現する等分かり易さを追求し、伝える努力をしている。クラス懇談会では、よりそこから各年齢に下した年齢なりのねらいを伝え、その後も折に触れ、クラス便りで時期ごとのねらいや課題</p>	<p>○理念や基本方針を伝える機会をさらに増す為に、毎月保育のポイント等を園だよりに掲載していく事を、職員で話し合った（来年度より）。</p> <p>○クラスだよりや懇談会等で、保育の中身的な部分への理解を深めてもらう為に、こちらの思いを伝えてきているが、保護者の価値観も多様化し、相互理解が難しくなっている。また、計画の周知は必要性を感じない部分もある。細かな部分については保育園の方針ですすめていっても良いと考える。</p> <p>○事業計画が保護者等に周知されている。という部分では園だより、クラスだよりで伝えてはいるが、「今月のポイント」等で、よりわかりやすく保護者に伝える工夫が必要と思われた。</p> <p>○保育のポイント、ひいては子どものための“子育てのポイント”となる。さまざまな「大切にしたいこと」「保護者にも大切と考えて子育ての上でポイントにしてほしいこと」は、より発信して啓もうしていくことができると思う。園だよりの裏のコラムなども、より多くのさまざまな職員が持ち寄りを書いて発信するなどではできないのか。また年度始めに限らず園全体としてその時保育のねらいを発信し、周知理解を求めめるための手段として、毎月の園だよりに具体的な保育内容や文言としてのねらい等を記載し、伝えていくことなどもできるのではないかと考える。経営状況の「的確な把握」「分析・課題発見」という観点には職員にはやや意識は弱いといえるかと思う（市財政への意識や課題意識はうすい）。また運営全般についていえると思うが、園の臨時職員さんとの連携はもっと強められるのではないかと（日々の目の前の保育だけにとどまらず）。</p> <p>○理念・基本方針について保育説明会、懇談会などで丁寧に伝えているが、クラス便りの中でも毎月（または期）の保育ポイントをわかりやすい表現で載せていってもよいと思う。</p>
----------	--	--

	<p>を伝えている。質の向上への取り組みは、職種の個々が研修してきた内容を研修報告として下しフィードバックしたり、実践提案をしていくことで還元し、保育内容の向上に努めている。経営状況の理解としては、公営であるというところでは、園ごとでなく市財政からの支出と理解し「市民の血税」というキーワードでつねに無駄のないよう意識していると思う。</p> <p>○保育計画をクラス担任と話し合いの元実施、反省点、子どもにとって良い環境を提供出来るよう意図的に設定している。</p> <p>○園職員の全体会議の他、業務内容に応じて各プロジェクト係などのグループに分かれて、具体的な検討・評価・反省をすすめている。</p> <p>○色々な研修に参加し知識を深めている。参加するだけでなく意見を交換しあい、研修参加で得た知識を広める事が出来た。</p>	
<p>6 地 域 と の 交 流</p>	<p>○・ホームページや冊子を通して、区と連携し園の情報を公開している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域支援は、担当まかせでなく、もちまわりで職員が関わっている。</li> <li>・園庭開放やイベントを開き、地域を呼びこんでいる。</li> </ul> <p>○園庭開放や地域向け講座、あそんでランチを行い、積極的に地域親子とつながっている。民間の近隣園とも交流を設け、子ども同士がつながったり、職員の学び合いの場を作っている。</p> <p>○・地域に向けた事業「あそんでランチ」「あそび広場」などは、どの職員も担当を持ち、責任持って取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園の情報をウェブで提供していたり、チラシを配布するなど積極的に地域と関わりを持っている。</li> </ul> <p>○・支援室との連携と園の掲示板を活用したり、声かけして地域親子への子育て支援への情報を提供している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開保育、出張して講演したり、キッズ等参加している。</li> </ul> <p>○・園庭開放や Web の更新等により、園の情報を発信している。</p> <p>○あそんでランチ、あそび広場など、様々な地域の親子対象の取りくみを行い、全職員が意識を持って取りくんでいる。</p> <p>○地域親子を対象をあてた事業に関して、参加者が増えてきているが、用務員をはじめ皆で受けいれていこうという意味と活動の成果ではないかと考えられる(例えば、門の横に掲示板を新たに作製する等)、又民間園との関わりも増え、公開保育や子ども同士の遊びの場の提供など、ニーズに合わせて乳児のものを多くするなど取り組んできた。</p> <p>○・地域園にプールを貸したり、行事(お楽しみ</p>	<p>○自治会や町内会に、園としてもっと参加していくべきか？</p> <p>○町内会などともっと連携していきたい。</p> <p>○福祉にーズという所ではこども向けの活動は多いものの、老人施設など関わりが薄いような気がする。又町内会や自治会などとの連携を取る必要が有る。</p> <p>○ボランティアの受入れのマニュアルを園独自のものを作成したらよい。</p> <p>○ボランティアに対する受け入れのマニュアルを作り、職員に周知する。</p> <p>○高津区の中でも、民間園が周囲に多い園である為、今後は更なる交流が必要になってくるのではと考える。</p> <p>○日常的な保育をすすめながらの業務となるので、人的、時間的な工夫が必要となり、在園児への負担を考えながら、工夫していかなければいけない。</p> <p>○支援室と連携をとり、地域との交流もおこなわれている。今年度は園独自で近隣園との交流も行ったが、年間通して行えると考える。</p> <p>○地域のニーズについては、来園している親子だけでなく、近所の公園に来ている親子などにも聞きとって、より正確な情報を入れても良い。</p> <p>○「地域」というワードで多く意識されるのは、つい「親子」または「他園」という面になりがちで、町内会・自治会というような意識が弱いように反省する。“父母の会”の「公園掃除」が行われていることの把握や、行事等(事前)のご挨拶などにとどまっている向きもある。区役所関係機関(部署)とも連携してそういった地域町内と、より関係を深めていくことも可能なのではないかと考える。ボランティアの受入れも体系化・組</p>

	<p>会)で一緒にとり組んだりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロータリークラブと関わりを持ち、いも堀りをしている等。</li> </ul> <p>○・地域支援に関して様々な方法で情報を公開し、時には直接配布に行き関係作りに努めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援室と連絡し、地域の組織の催しにも積極的に参加している。</li> <li>・情報発信することで、年々地域との関係が深まり、利用者も増えている。</li> </ul> <p>○地域の子どもに対して広場や、あそびランチ等、クラスで担当を順番にもつことにした事で全員が地域との交流に対して意識が高まった。</p> <p>○高津区役所の子ども支援室を経由して Web で知らせたり、近所の施設や園の門の掲示板に行事等を知らせている。</p> <p>○区内の公営保育園の中だけみても、抜きん出て同園の民間保育所とのコンタクト数が多く、ここ数年で増えてもいる。職員の一人ひとりがその自覚を持ち、様々な事業に意識を持ちとりくんでいる。支援室(区役所)との連携も強め、他園に比べ多くのウェブサイトへの掲示もしており(※作業依頼をして)、他域親子へのアピール・事業宣伝を広くしている。実際ウェブを見てイベントを知り、来園するというケースが増えた。支援室とのつながりの中から、提案される様々な企画にも積極的に参加し、園から出張したり子どもと共に出向いたり、自園から申し出て企画を立ち上げたりすることもできた。担当者が出張して実施する地域親子向け企画の中でも、一緒に参加する。地域の民生委員さん、主任児童委員さんかたと顔見知りになったり、会を毎回実施して協力し合うことで信頼関係を築き、西高津への関心も増してもらうことができた。</p> <p>○地域の民間保育園との交流をし、園庭開放、あそびの広場等定期的に行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園長が小学校や民間保育園との連絡会に参加し、職員にも情報が下されている。</li> <li>・地域支援事業に職員が担当持ち回りで関わることで、全職員が主体的に関わり、問題点も共有されている。</li> </ul> <p>○園庭開放、ランチ等地域の方に参加して頂き、友達作りのきっかけや不安な気持ちを理解しはげましや、応援の言葉がけ等丁寧に対応している。</p>	<p>織化しているものの、職員としてマニュアルを持ち(又はそれを熟知し)一人ひとりがすぐに対応できるかどうかといえ、まだ弱い部分と思われる。「保育園」にとどまらず存在するこの地域全体の中の一つとしての意識の持ち方や、事業・活動への参画、福祉ニーズの広い把握はこれからの課題か。</p> <p>○園近隣の地域関係者、民間保護者へのより具体的なニーズ調査を行い、効果的な事業につなげていきたい。</p> <p>○町内会、自治会等に、ももう少し積極的に働きかけ交流の場を作る。</p>
<p>7 職 員 の 資 質 の 向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○・児童数に合わせた職員が配置されている。</li> <li>・西高津独自の実習生受け入れマニュアルがある。</li> <li>・園内研修、自己研修など自己研鑽して、報告している。</li> </ul> <p>○充実保育士がフリーとしており、人員体制はとれている。研修では全職員が何らかの研修を受けるように組まれており、学ぶ場・機会は恵まれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○・自主考査を行ったり、人権について研修をどの</li> </ul>	<p>○研修の報告やレポートの提出は行うものの、全職員への報告がしきれない時もある。</p> <p>○夏期の研修も積極的に参加しているが、体制の都合上行けないこともある。</p> <p>○今後、さらに個別の目的目標に合わせた研修計画が持てると良いと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○・人事評価により、自分の業務へのとりくみ姿勢や、課題についての振りかえりはできるが、保</li> </ul>

上	<p>職員も参加している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人事評価では年3回の助言指導を行っている。</li> <li>・実習生の受け入れではオリエンテーションを丁寧に行い、受け入れしている。又各年齢ごとに発達が見えるよう受け入れ、育成を行っている。</li> </ul> <p>○・人事評価を行い、適切な評価・アドバイスをし、質の向上に向けた体制作りを行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修や人材育成を計画的に取り組み行われている。</li> </ul> <p>○自主考査や人事評価（3回の面談）の実施。</p> <p>○自主考査、キャリアに応じた研修への参加、人事評価などで、各自また全体として も保育の質の向上に努めている。</p> <p>○園長はじめリーダーとなる職員は、学びに対して積極的に提案や指導が行えるように取り組んでいる。</p> <p>○公開保育等、積極的に参加できるよう体制を組んでいる。</p> <p>○・年2回の自主考査により、倫理的な面をしっかりと確認し、遵守している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修が計画的に実施され、質の向上の為に時間が保障されている。</li> </ul> <p>○・自主考査を実施したり、保育士でもあり公務員であるという点での意義についての調査、人事評価の実施や研修、学習会によりスキルアップを行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成の重要性を理解し、実習生受け入れのマニュアル作成や中学生等の交流、ボランティアも積極的に受け入れている。</li> </ul> <p>○職員全体の平等性を保ち、休暇等とれるようにしている。キャリアに応じた研修に行き、その研修をいかした保育ができています。実習生の受け入れマニュアルが西高津独自のものがある。</p> <p>○毎年自主考査で遵守すべき法令等を確認している。</p>	<p>育そのものを書面からの理解だけでは、正しく評価できないと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんながまじめに業務をこなしているが、もっと有給休暇の取得率をアップさせていく方向で、職員の心、身、両面からの健康維持を考えていく方が良い。</li> </ul> <p>○個別の教育、研修等の報告を十分に職員にできていない事に改善の必要を感じる。</p> <p>○職員の研修体制について、「個別の計画の評価見直し」を行えているかといえば、一人ひとりの計画のようなものは短期・中期には確立されていないと思われる。年間あるいは数年の間というスパンでみても“計画性”は、平等性を保ちつつ様々な分野で各人が研修に出られるようにというバランスを取っているが、それより個々が自身で意識して計画性を持つことや、他職員との連携で見直しを行うなどももっとできるのではないかと。臨職さんへの資質向上のとりくみは、もっと様々な形で多くの時間を割いて進めるべきなのではないかと考える。</p> <p>○研修の報告の他、実践し活かされた経過、結果報告まで継続して行われていくと、さらに充実するのではないかと。</p>
---	--	--

## 利用者アンケート結果(川崎市西高津保育園)

### 1. 調査対象

利用者の保護者全員を対象とした。(一家族に複数利用者は1件)

### 2. 調査方法

保育園より保護者にアンケート用紙を渡してもらい、回答は保育園入口に設置したアンケート用紙回収箱に入れてもらい、後日、評価機関が回収した。

### 3. アンケート発送数及び回収数

利用者数：80      回収数：71      回収率：88.7%

### 4. コメント

アンケートの回収率は88.7%になっております。多くの利用者の方は園の指導内容に満足を得られております。

#### <サービスの提供>

特に利用者の満足度が高いのが、「提供されている食事」についてと「園の日常の生活での自然や社会とのかかわり」で、90%以上の利用者が「はい」と回答しております。

#### <利用者個人の尊重>

74%の利用者が子供たちを大切にされており、プライバシーも守られていると回答しております。

#### <相談苦情への対応>

保護者の考えを聞く姿勢については74%の利用者が「はい」と回答しておりますが、外部の苦情窓口については「いいえ」と回答した利用者が31%となっております。

#### <周辺地域との関係>

近接の中学校との関係もあり、85%の利用者が「はい」と回答しております。

#### <利用前対応>

利用前の説明については、85%の利用者が「はい」と回答しております。

\*現在のサービスの提供については、多くの利用者は満足を得ております。特に食事と園での生活という、核になる部分で利用者の評価が高くなっています。

認可保育所 利用者調査項目（アンケート）

●アンケート送付数（対象者数）（ 80 ）人  
 ●回収率 88.8%（ 71 ）人

サービスの提供

利用者調査項目		はい	どちらともいえない	いいえ	無回答
1	落ち着いて過ごせる雰囲気になっているか。	77.5% 55人	16.9% 12人	5.6% 4人	0.0% 0人
2	子どもの体調変化への対応は適切か。	84.5% 60人	12.7% 9人	2.8% 2人	0.0% 0人
3	提供されている食事は、子どもの状況に配慮されているか。	93.0% 66人	7.0% 5人	0.0% 0人	0.0% 0人
4	子どもの保育について、保護者と園に信頼関係があるか。	77.5% 55人	21.1% 15人	1.4% 1人	0.0% 0人
5	園の生活で身近な自然や社会と十分かかわっているか。	90.1% 64人	7.0% 5人	2.8% 2人	0.0% 0人
6	安全対策が十分に取られているか。	67.6% 48人	28.2% 20人	4.2% 3人	0.0% 0人

利用者個人の尊重

7	一人ひとりの子どもは大切にされていると思うか。	83.1% 59人	14.1% 10人	2.8% 2人	0.0% 0人
8	子どものプライバシーは守られているか。	81.7% 58人	15.5% 11人	2.8% 2人	0.0% 0人

相談・苦情への対応

9	保護者の考えを聞く姿勢があるか。	74.6% 53人	15.5% 11人	9.9% 7人	0.0% 0人
10	第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか。	46.5% 33人	9.9% 7人	43.7% 31人	0.0% 0人
11	要望や不満はきちんと対応されているか。	66.2% 47人	23.9% 17人	9.9% 7人	0.0% 0人

周辺地域との関係

12	周辺地域と園との関係は円滑に進められているか。	70.4% 50人	29.6% 21人	0.0% 0人	0.0% 0人
----	-------------------------	--------------	--------------	------------	------------

利用前の対応

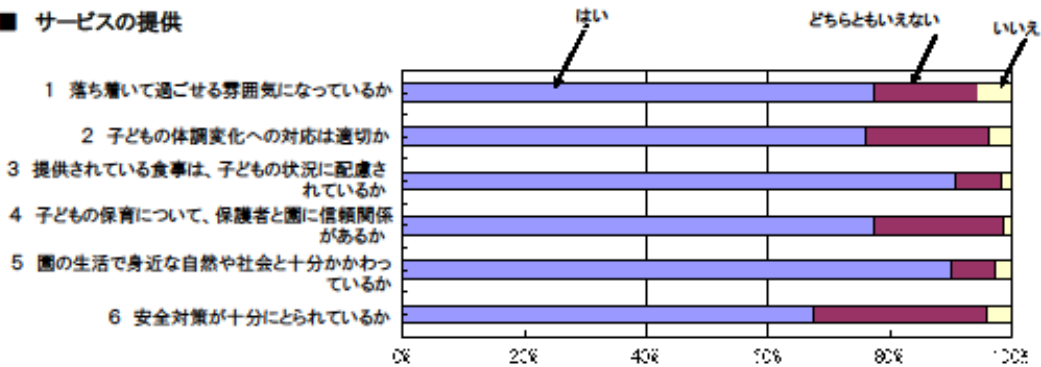
13	【過去1年以内に利用を開始され、利用前に説明を受けた方に】サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか。	26.8% 19人	9.9% 7人	1.4% 1人	62.0% 44人
----	--	--------------	------------	------------	--------------



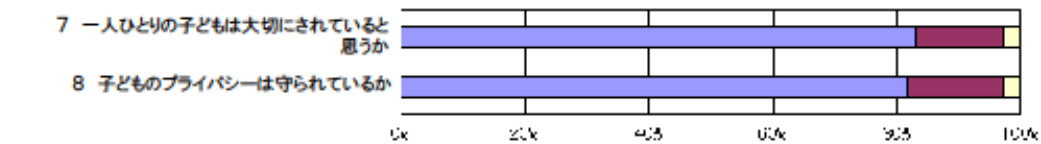
## 利用者アンケート集計結果（グラフ表示）

調査対象保育園：西高津保育園

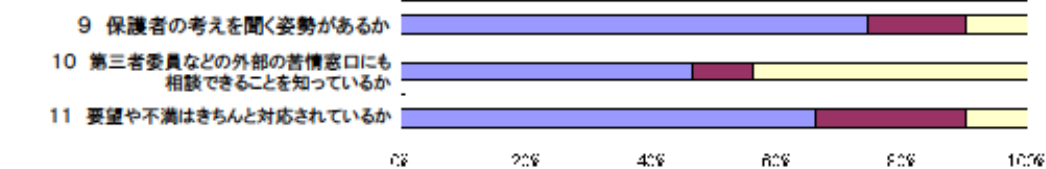
### ■ サービスの提供



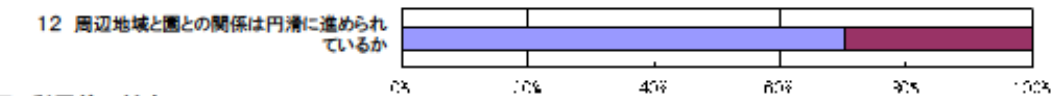
### ■ 利用者個人の尊重



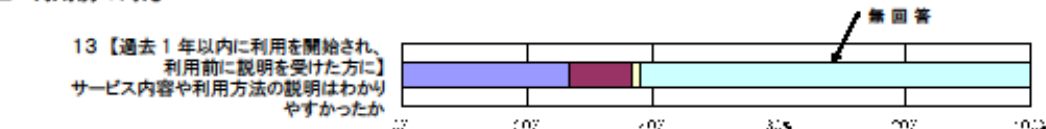
### ■ 相談・苦情への対応



### ■ 周辺地域との関係



### ■ 利用前の対応



## 事業者コメント

### 西高津保育園

第三者評価を受けるにあたり、個人の自己評価や振り返りをすると共に、全職員で保育の振り返りを進めてきました。

その中で園の状況を把握し、西高津保育園ならではの保育の良さを活かし、こどもの最善の利益を考えて、保育していくことを皆で深めていくことが出来たと感じています。

評価分類ごとに各グループごとに話し合い、それを全体で報告しあうことで自分だけでは、気づきにくいことに気づいたり、視野を広げることにも繋がりました。意識せずやっていたがそれがどこに繋がっていくのか、どんな意味があるのかということも改めて認識する機会となりました。

結果討議、検討を重ねる中で職員全体の質の向上になったことと思います。

さらなる改善が望まれる点に挙げられていた保育環境の整備では、「見える化」を意識しての書類管理をしていくこととあわせてそれぞれの気づきを声に出し環境をよりよくするために取り組んでいきます。

保護者への積極的な働きかけは、今後の課題として職員全員が自分のこととして受け止め、いかに保育を伝えていくのか、保護者の声をどのように聴いていくのか等考えていきたいと思っています。